

清代宝坻県知県表稿

伍 躍

清代に入って、国家は秦の始皇帝以来の制度を継承して、全国に分布している県に知県を配置した。この知県は、清朝の「一人政府」という地方統治システムを構成する最重要なものとして知られている。その「一人政府」とは、県域内のありとあらゆる事務を司り、その全責任を負うのが一人の知県であり、彼のもとであらゆる県政が運営されることを指す用語として、瞿同祖がつくった表現である¹。

明清時代には、中国各地で編纂した地方志、とくに県志のなかに、県政の最高責任者としての知県に関する記録がある。ほかに、県が所属する府や州の地方志のなかに、知県についての資料を掲載して保存するものもある。とくに歴代の知県の氏名、本籍、出身資格、在任期間などの資料がある。これは地方史研究のみならず、官僚制度史の研究にも欠かせない重要な資料である。しかし、地方志編纂のレベルはバラつきがあり、詳細に記録するものもあれば、ごく簡単にしか記されていないものもある。現在の天津市宝坻区にあたる清代の宝坻県の知県に関する記録は残念ながら、その後者にあたる。

清朝時代では、『宝坻県志』は2回編纂された。つまり康熙の『宝坻県志』と乾隆の『宝坻県志』である。

前者は、康熙十二年に（1673）知県の牛一象が編纂したものである。この地方志の巻四の

「秩官志」では、順治元年（1644）に着任した薛良心から牛一象まで、計11人の知県の氏名、本籍、出身資格などが記している。たとえば、清代に入って最初の宝坻県知県だった薛良心について、

遼東人、貢士、陞蘇州同知。見名宦。

と書いてある。これを読めば、薛良心は遼東出身の人で、貢生という資格を持ち、宝坻県知県を務めたあと、蘇州府同知に陞進した、という彼の略歴を把握することができる。なお、彼の伝記は「名宦」の部分にある、ということもわかる。

後者は、乾隆四年（1739）に着任した知県の洪肇楸が編纂した地方志で、初刊は同十年（1745）であった。民国六年（1917）に乾隆十年の刊本を底本に影印版が作られた。この地方志の巻八の「職官志」では、康熙『宝坻県志』に記している上記11名知県のほか、牛一象の次に知県に就任した路坦から、編纂者の洪肇楸に至るまで26人の知県の情報を収録している。収録の体例は康熙『宝坻県志』に準ずるのであった。現時点で把握しえる書誌情報に限って、この乾隆の『宝坻県志』を最後に、清朝が滅亡するまで、宝坻県の歴任知県が再び『宝坻県志』を編纂することはなかった、ということ言うことができよう。

清朝時代で編纂した上記2つの『宝坻県志』

¹ 瞿同祖『清朝地方政府（増訂版）』（北京：法律出版

社、2011年）、第315頁。

には、順治元年～乾隆4年の間に在任した合計37人の知県の記録があるものの、欠陥もあった。その欠陥とは、体例上、その37人の知県の在任期間についての記録はなかった、ということである。

幸い、光緒初年、繆荃孫らが参与したもと、清朝時代最後の『順天府志』が編纂された。この『順天府志』の巻八十一と八十二は「国朝州県表」では、順天府下5州19県の地方官、とりわけ知県の氏名、略歴（本籍・出身資格・在任期間）を収録している。宝坻県知県についての情報は巻八十二にある。先に言及した康熙と乾隆の『宝坻県志』に記している37人の知県を含めて、『（光緒）順天府志』は光緒九年（1883）までの延べ99人の知県を収録している。康熙と乾隆の『宝坻県志』に比べて、この府志の貢献は、歴代の知県の在任期間についての情報が大幅に補足することができたことにある。それは、おおよそ以下のようなものである。

①在任年月の明示

咸豐十一年条：李 識韓、山西 太平人、拳人、十二月任

同知元年条：章燦、浙江 富陽人、拳人、八月任

②在任年度の記載

順治元年条：薛良心

順治二年条：〔記載がないが、おそらく薛良心であろう〕

順治三年条：孫必茂

③在任年度の推測

康熙八年条：欧陽動生

康熙九年条：〔記載がないが、おそらく欧陽動生であろう〕

康熙十年前：関（伍案：原文では「関」。題名碑による）以華、杜仁俊

④在任期間不詳

順治十八年：〔記載なし〕

年未詳：魯元公

このように、推測や未詳のままのものもあるが、上記2つの『宝坻県志』に比べて、より詳しい情報が収録したという面においてはやはり貴重である。

清代以後、明清時代の宝坻県地方志に相当する出版物は、宝坻県志編修委員会が1995年に編纂した『宝坻県志』を挙げることができよう。この本の第10編は「政権政協」である。ここでいう「政権」とは、中国の現行憲法第三章でいう「国家機構」のことであり、「政協」とは、中国特有の政治協商制度下にある「政治協商会議」のことである。その項目のもとでは、清代の知県40人の情報を記録している。その記録は以下2つの特徴がある。

①康熙と乾隆の『宝坻県志』にすでに収録した37人の知県を再録して、本籍のほか、着任もしくは在任の時期に関する情報を明記した。しかし、『（光緒）順天府志』で「康熙五十七年前」と記している13人の知県の着任／在任の期間については、康熙五十九年を基点に、2年間隔でさかのぼって、かつ「（約）」という漢字をつけて配列している。これと同じように、『（光緒）順天府志』で「雍正九年前」と記している5人の知県の着任／在任の期間も、雍正三年（1725）から1年ずつ配列して「（約）」という漢字を付けている。つまり、これらの知県の在任期間は推測によるものである。しかし、1995年『宝坻県志』の編纂者が如何なる情報を根拠に上記の着任／在任の期間を推測したかについての説明はなかった。

②上記の37人のほか、1995年『宝坻県志』はさらに3人の知県の資料を下記のように追加した²。

² 宝坻県志編修委員会『宝坻県志』（天津：天津社会科

学院出版社、1995年）、第586頁。

姓名	籍貫	着任（在任）期間	
		中国歴史紀年	西暦紀年
……（略）			
徐定邦	山東歴城	清乾隆五十四年	1789
単福昌		清嘉慶十四年	1809
李宜范		清道光十六年	1836

上記の表について、1995年『宝坻県志』の編纂者は次のように説明している。

洪肇楙が乾隆十年（1745）に離任したのち、『宝坻県志』の編修も中止した。よって、歴代の知県を考証することができない。関係資料をもとに上記の3人を増補したが、これ以上は知らない。

この説明は、ある意味では正しい。『（乾隆）宝坻県志』を最後に、宝坻県地方志の編修は確かに「中止」した。しかし、「歴代の知県を考証することができない」というわけではない。たとえば、上記の『（光緒）順天府志』はその一つである。1995年『宝坻県志』の編纂者たちは『（光緒）順天府志』について触れていない。その存在について知らなかったのだろうか。しかし、前記①とこの②にあった着任／在任の期間についての記録は、『（光緒）順天府志』と重複する部分が多々ある。なお、上記三人の知県を追加した根拠としての「関係資料」について、編纂者がその義務としてひと言の説明もしていなかった。

以上で紹介したのは、これまでに宝坻県知県に対する把握の概況である。

筆者は上記の『（康熙）宝坻県志』、『（乾隆）宝坻県志』、『（光緒）順天府志』および1995『宝坻県志』の記載をもとに、さらに『清実録』と歴史档案などの文献をもとに、署理や再任などを含めて延べ140人の宝坻県知県を把握するこ

とができた。その詳細については、付録の「清代宝坻県知県表稿」を参考されたい。

しかし、この延べ140人の宝坻県知県の情報はあくまで経過段階のものである。数年前、筆者は『『順天府档案』に見える清代国家基礎権力の実現－宝坻県の官僚配置と社会組織の役割を例に』を執筆し³、その時点で把握できた清代の順治から宣統に至るまで延べ122人の知県を対象に、出身資格などについて分析作業を行った。それ以来、さらに史料を発掘して、18人分の追加をすることができた。「清代宝坻県知県表稿」を見ればわかるように、以下のような問題が存在している。

①『（光緒）順天府志』が存在した在任期間の未確定という問題の解消ができていない。

②未知の知県も多々ある。たとえば、嘉慶朝の治世は二十五年間であったが、現に把握できている知県はわずか9人であった。特に、知県たちが3年の任期を全うことはほとんど期待できない19世紀のはじめ、二十五年間で知県9人とはやはり考えられない。

学力はもとより、史料の制限もあり、これらの問題は現段階においては解決することはすぐできないが、他日の課題として引き続き考えていきたい。

最後になるが、「清代宝坻県知県表稿」の作成にあたり、利用した資料を簡単に紹介しておこう。

³ 『東アジア研究』、第66号、2017年、第17-32頁。

- ①『(康熙)宝坻県志』(清康熙年間刊本)、巻四、秩官志。
- ②『(乾隆)宝坻県志』(民国六年影刊本)、巻八、職官志。
- ③『宝坻県志』(天津：天津社会科学院出版社、1995年)、第十編、政権政協。
- ④『(光緒)順天府志』(清光緒十五年刊本)、巻八十二、官師志、国朝州県表二下。
(※史料①～④の引用の詳細は省略する)
- ⑤『清実録』(北京：中華書局、1986-1987年)。
引用の詳細は「備考」を参照されたい。
- ⑥中央研究院歴史語言研究所蔵内閣大庫档案。
引用の詳細は「備考」を参照されたい。
- ⑦国立故宫博物院蔵清国史館伝稿。引用の詳細は「備考」を参照されたい。
- ⑧順天府档案。引用の詳細は「備考」を参照されたい。
- ⑨摺紳録。「直隸・順天府」を参照されたい。
- ⑩『畿輔同官録』(清光緒三十年北洋官報局活字本)。引用の詳細は「備考」を参照されたい。

「祭姪文稿」を拝見して翌日、戊戌年十二月二十七日
時は、「祭姪文稿」完成後の1260周年にあたる

本研究はJSPS科研費17K03153の助成をうけたものです。

清代宝坻県知県表稿

No.	康熙	乾隆	光緒	氏名	任官 形態	在任時期	本籍	出身	備考
1	1	1	1	薛良心		順治元年～二年	遼東	貢士	
2	2	2	2	孫必茂		順治三年	陝西	辟举	
3	3	3	3	万全		順治四年～	八旗紅旗	選貢	『清世祖実録』、卷六十九、順治九年四月己未。
4	4	4	4	甄成		順治十年前	八旗黃旗		
5	6	6	5	蕭蕙		順治十年	江南太湖	歲貢	
6	5	5	6	方之璧		順治十一年～	山東	举人	
7	7	7	7	魯元公		年未詳	湖広麻城	举人	
8	10	10	8	欧陽動生		康熙八年～	江西安福	進士	
9	8	8	9	関以華		康熙十年前	湖北公安	進士	
10	9	9	10	杜仁俊		康熙十年前	江南江都	選貢	
11	11	11	11	牛一象		康熙十一年～	陝西榆林	蔭生	
12		12	12	路垣		康熙二十年前	陝西三韓	監生	
13		13	13	別楣		康熙二十年～	湖北景陵	進士	
14		20	14	毛士儀		康熙三十四年～	浙江遂安	拔貢	寄籍先は秀水。
15		14	15	王嘉亮		康熙五十七年前	山東肥城	貢生	
16		15	16	李襄		康熙五十七年前		監生	
17		16	17	徐元璞		康熙五十七年前	江南揚州		
18		17	18	徐璉		康熙五十七年前	河南		
19		18	19	錢壽世		康熙五十七年前	江南常州	貢生	
20		19	20	柯鉉		康熙五十七年前	八旗鑲黃		
21		21	21	呉振武		康熙五十七年前	浙江秀水	貢生	
22		22	22	薛文		康熙五十七年前	陝西榆林	吏員	
23		23	23	杜之叢		康熙五十七年前	陝西扶溝		
24		24	24	沈嵩士		康熙五十七年前	浙江海寧	進士	内閣大庫档案121705。
25		25	25	湯大正		康熙五十七年前	江南	貢生	
26		26	26	黄志元		康熙五十七年前	福建	県丞	
27		27	27	周天眷		康熙五十七年前	広西鬱林	举人	
28		28	28	程璇	選	康熙五十七年～	湖南益陽	举人	『文陸閣縉紳全書』（雍正二年刊本）。
29		29	29	呉祖留		雍正九年前	江蘇武進	進士	
30		30	30	呉槃		雍正九年前	安徽全椒	貢生	
31		31	31	徐大樑		雍正九年前	江西金谿	進士	
32		32	32	劉廷元		雍正九年前	湖北江夏	進士	
33		33	33	廖翼		雍正九年前	四川閬中	举人	
34		34	34	伍沢栄		雍正九年	湖南祁陽	進士	
35		35	35	韓亦詩		年未詳	山西沢州	貢生	
36		36	36	李翹		乾隆四年前	河南涉県	進士	内閣大庫档案074306。
37		37	37	洪筆林		乾隆四年～十年	安徽歙県	進士	寄籍先は儀徴。内閣大庫档案013455。
38				儲起綸	署理	乾隆十年七月～十二年三月	江南宜興	監生	内閣大庫档案013455、054267。
39				錢家瑩	授	乾隆十二年四月～	浙江嘉善	举人	『縉紳新書』（乾隆十三年刊本）。
40			38	呉克用		乾隆十九年～			

No.	康熙	乾隆	光緒	氏名	任官 形態	在任時期	本籍	出身	備考
41			39	関実秀		乾隆二十一年			
42			40	李武曾		乾隆二十一年～	河南洛陽	監生	
43				蒋榆	陞	乾隆二十年二月～ 二十三年四月	江蘇常熟	貢生	『大清官職遷除全書』（乾隆二十二刊本）。 内閣大庫档案221207。
44			41	呉竜光	署理	乾隆二十三年六月～ 八月	浙江錢塘	举人	
45			42	李得御	調	乾隆二十三年五月	陝西大荔	举人	『大清仕籍全編』（乾隆二十八年刊本）。
46			43	許鈞	調	乾隆三十一年九月～	浙江仁和	監生	『爵秩全書』（乾隆三十三年刊本）。
47				梁肯堂	題	乾隆三十三年十月～ 三十六年	浙江錢塘	举人	『大清官職遷除全書』（乾隆三十五年崇寿 堂刊本）。清国史館伝稿701002746。
48			44	孫之岸		乾隆三十八年～	陝西三原	進士	
49				周世沄	題	乾隆三十八年七月～	浙江仁和	監生	『縉紳全書』（乾隆四十二年世錦堂刊本）。
50				呉端立	調	乾隆五十二年九月～ 五十四年二月十一日	山東单県	進士	『縉紳全書』（乾隆五十三年西榮慶堂刊 本）。『順天府档案』、卷九十五、宝坻県 詳文、乾隆五十四年八月初十日。
51				徐定邦		乾隆五十四年二月 十二日～			『順天府档案』、卷九十五、宝坻県詳文、 乾隆五十四年八月初十日。
52				金宝		乾隆五十七年九月			内閣大庫档案107999。
53				王之霖	調	乾隆五十九年九月～	江蘇鎮洋	举人	『縉紳全書』（嘉慶元年奎文閣刊本）。
54				陳鳳翔		～嘉慶二年三月			内閣大庫档案001588。
55			45	楊瑛昶	署理	嘉慶二年三月～	安徽桐城	監生	『縉紳全書』（嘉慶二年奎文閣刊本）。 『（光緒）順天府志』では「乾隆四十九年 以前」としている。
56				王鎧	調	嘉慶五年八月～ 十二年十月	広西臨桂	進士	『縉紳全書』（嘉慶五年刊本）。内閣大庫 档案173245。
57				单福昌		嘉慶十三年五月～ 十四年六月			内閣大庫档案113557、016370。
58				呉蠟	署理	嘉慶十四年六月～			内閣大庫档案016370。
59				関□□		嘉慶二十年十月			『順天府档案』、卷九十五、稟、嘉慶二十 年十月十一日。
60				李五曾	陞	嘉慶二十一年六月～	河南洛陽	監生	『縉紳全書』（嘉慶二十五年刊本）。
61				徐□□		嘉慶二十五年正月			『順天府档案』、卷九十五、差喚票、嘉慶 二十五年正月二十二日。
62				李□□		嘉慶二十五年十一月			『順天府档案』、卷九十五、差緝票、嘉慶 二十五年十一月十六日。
63			46	劉澐	補	道光三年～	四川銅梁	举人	『縉紳全書』（道光四年刊本）。
64			47	蒋超曾	補	道光四年～	江蘇呉県	進士	『爵秩全覽』（道光六年刊本）。『順天府档 案』、卷十七、通飭、道光四年十一月初 三日。
65			48	林靖光	調	道光六年～	福建侯官	举人	『縉紳全書』（道光七年刊本）。
66			49	欧陽学		道光八年～	湖南新化	举人	
67			50	馬登俊		道光九年～ 道光十年四月	山東昌邑	進士	内閣大庫档案291600。
68			51	黄育梗		道光十年～	甘肅狄道	举人	
69			52	黄之瀾	調	道光十年～十一年	江西南豊	監生	『縉紳全書』（道光十年刊本）。
70			53	黄維斡		道光十二年	江西南昌	監生	

清代宝坻县知县表稿

No.	康熙	乾隆	光緒	氏名	任官 形態	在任時期	本籍	出身	備考
71			54	王光鐸		道光十二年五月～	四川巴县	举人	
72			55	劉巖	調	道光十二年九月～ 道光十三年七月	山東单県	举人	『縉紳全書』（道光十三年榮觀堂刊本）。 内閣大庫档案128331。
73			56	許瀚	調	道光十三年	江西南昌	副貢	『縉紳全書』（道光十四年刊本）。
74			57	項光		道光十五年	貴州貴筑	举人	
75			58	李宜範	調	道光十五年七月～	山東鄒平	举人	『縉紳全書』（道光十六年榮禄堂刊本）： 安徽宣城。
76			59	冉学詩		道光十六年	山東曹県	恩貢	
77			60	李澎		道光十六年十一月～	山東昌邑	举人	
78			61	金照	調	道光十七年～	浙江錢塘	举人	『縉紳全書』（道光十七年榮貴堂刊本）。
79			62	劉夢熊		道光十八年～	河南虞城	举人	
80			63	陳稼生	調	道光十八年八月～	江蘇宝山	举人	『縉紳全書』（道光十九年刊本）。
81			64	張元杰	調	道光二十一年三月～ 二十五年一月	山東館陶	進士	『縉紳全書』（道光二十二年刊本）。内閣 大庫档案194364。
82			65	劉宝楠		道光二十五年～	江蘇宝应	進士	
83			66	倪斌	調	道光二十五年～	浙江会稽	举人	『縉紳全書』（道光二十五年刊本）。
84			67	王者詔		道光二十七年～	山東濟陽	進士	
85			68	楊春和	調	道光二十八年～	貴州貴筑	進士	『大清縉紳全書』（道光二十八年榮禄堂刊 本）。
86			69	戴臣法	調	道光二十八年～	広西臨桂	進士	『大清縉紳全書』（道光二十九年榮陞堂刊 本）。
87			70	王啓疆		道光二十九年～	陝西岐山	举人	
88			71	魏謙六	調	道光三十年三月～	河南鄭県	進士	『大清縉紳全書』（道光二十九年榮禄堂刊 本）。
89			72	車汝震	調補	咸豐元年十二月～ 四年三月	貴州貴陽	進士	『大清縉紳全書』（咸豐四年榮禄堂刊本）。 内閣大庫档案136212、020838。
90			73	熊存瀚		咸豐四年～	江西鉛山	举人	
91			74	劉秉琳	調	咸豐五年～	湖北黄安	進士	『大清縉紳全書』（咸豐五年榮禄堂刊本）。
92			75	楊謙柄	署理	咸豐七年～	江蘇陽湖	举人	
93			76	劉秉琳	回任	咸豐七年八月～	湖北黄安	進士	
94			77	孫鴻基	補	咸豐十一年四月～	江蘇金匱	監生	『大清縉紳全書』（同治元年榮禄堂刊本）。
95			78	余汝珍		咸豐十一年八月～	江蘇武進	附貢	
96			79	李識韓		咸豐十一年十二月～	山西太平	举人	
97			80	章燦	調	同治元年九月～	浙江富陽	举人	『大清縉紳全書』（同治二年榮禄堂刊本）。
98			81	呉履福	補	同治五年六月～	安徽涇県	举人	『大清縉紳全書』（同治六年榮禄堂刊本）。
99			82	楊謙柄	署理	同治六年九月～	江蘇陽湖	举人	
100			83	呉履福	回任	同治六年十二月～	安徽涇県	举人	
101			84	楊蔚本		同治七年～	貴州遵義	举人	
102			85	呉履福	回任	同治八年～	安徽涇県	举人	
103			86	丁符九		同治十一年五月～	江西德化	優貢	『順天府档案』、卷十七、順天府札、同治 十一年七月初七日。
104			87	管近修	題補	同治十一年七月～	江蘇江寧	進士	『大清縉紳全書』（同治十二年榮禄堂刊 本）。『順天府档案』、卷十七、申文、同 治十三年四月十五日。

No.	康熙	乾隆	光緒	氏名	任官形態	在任時期	本籍	出身	備考
105			88	蔡壽臻		同治十三年七月～	浙江桐鄉	附監	『清代官員履歷檔案全編』、28冊/第172頁。
106			89	管近修	回任	光緒元年六月～	江蘇江寧	進士	
107			90	查光泰		光緒元年十二月～	浙江海寧	監生	『清代官員履歷檔案全編』、28冊/第108頁。
108			91	厲能官		光緒二年九月～	江蘇儀徵	拔貢	
109			92	管近修	回任	光緒三年二月～	江蘇江寧	進士	
110			93	趙英		光緒四年三月～			
111			94	王堃		光緒四年三月	江西東鄉	監生	『清德宗實錄』、卷一〇五、光緒五年十二月庚戌。
112			95	楊謙柄	署理	光緒五年五月～	江蘇陽湖	舉人	
113			96	劉枝彥	調	光緒六年三月～	江蘇武進	供事	『大清縉紳全書』(光緒六年榮華堂刊本)。
114			97	管近修	復任 署理	光緒六年七月～	江蘇江寧	進士	『順天府檔案』、卷十七、順天府札文、光緒七年七月十七日。
115			98	高體泉		光緒七年十月～	浙江仁和		
116			99	劉枝彥	回任	光緒八年十二月～	江蘇武進	供事	
117				趙□□		光緒十一年			『順天府檔案』、卷九十四、認狀、光緒十一年十二月初三日。
118				不詳	調	光緒十二年九月～	山東夏津	優貢	『大清縉紳全書』(光緒十三年榮錄堂刊本)。
119				石□□		光緒十二年十一月			『順天府檔案』、卷九十四、差喚票、光緒十二年十一月十一日。
120				袁□□		光緒十三年五月			『順天府檔案』、卷九十三、差喚票、光緒十三年五月十六日。
121				湯釗	補	光緒十三年十一月～	四川巴鼎	監生	『大清縉紳全書』(光緒十四年榮祿堂刊本)。
122				章鈞	署理	光緒十四年九月～			『清德宗實錄』、卷二百五十九、光緒十四年九月乙亥。
123				謝裕楷	補	光緒十八年二月～	陝西安康	進士	『大清縉紳全書』(光緒十九年文寶堂刊本)。
124				張及第	補	光緒十九年九月～	山西陽高	廩貢	『大清縉紳全書』(光緒十九年松竹齋刊本)。
125				張肇鏞	署理	光緒二十年二月			『清德宗實錄』、卷三百三十五、光緒二十年二月癸酉。
126				賈國楨	調署	光緒二十三年正月～ 光緒二十三年三月	奉天錦鼎	進士	『大清縉紳全書』(光緒二十三年榮錄堂刊本)。『清德宗實錄』、卷四百三、光緒二十三年三月己未。
127				張及第	調	光緒二十三年九月	山西陽高	廩貢	『大清縉紳全書』(光緒二十四年榮錄堂刊本)。『順天府檔案』、卷九十三、差喚票、光緒二十三年十月二十六日。
128				燕調緯	署理	光緒二十五年十一月	湖北黃陂	舉人	『清德宗實錄』、卷四百五十五、光緒二十五年十一月壬申。
129				王忠蔭		光緒二十六年七月	江蘇常州	附貢	『清德宗實錄』、卷四百六十六、光緒二十六年七月壬寅。『畿輔同官錄』、第3冊。
130				賴汝顯	署理	光緒二十七年正月	四川華陽	監生	『清德宗實錄』、卷四百七十八、光緒二十七年正月甲戌；卷五百二、光緒二十八年七月戊辰。『畿輔同官錄』、第1冊。

清代宝坻県知県表稿

No.	康熙	乾隆	光緒	氏名	任官形態	在任時期	本籍	出身	備考
131				趙元樽	補	光緒二十七年十二月～三十年七月	浙江山陰	監生	『大清縉紳全書』（光緒二十八年榮録堂刊本）。『清德宗実録』、卷五百三十三、光緒三十年七月甲申。
132				劉景熙			江蘇武進	監生	『順天府档案』、卷二十三、申文、光緒二十八年八月二十二日。『畿輔同官録』、第4冊。
133				許元震	署理	光緒二十八年九月二十五日～	浙江山陰	監生	『順天府档案』、卷二十三、申文、光緒二十八年十月初六日。『畿輔同官録』、第1冊。
134				馬為瑗	署理	光緒二十九年七月	江蘇塩城	廩貢	『清德宗実録』、卷五百十九、光緒二十九年七月壬寅。
135				唐玉書	署理	光緒三十年七月～	四川三台	優貢	『畿輔同官録』、第1冊。
136				廖毓英	補授	光緒三十年十二月～	福建侯官	進士	『畿輔同官録』、第1冊。
137				于文光	補	光緒三十三年四月～	浙江山陰	監生	『大清縉紳全書』（光緒三十四年榮録堂刊本）。
138				沈□□		光緒三十三年十月			『順天府档案』、卷九十三、詳冊、光緒三十三年十月二十八日。
139				袁□□					『順天府档案』、卷二十三、宝坻県移知、光緒■■■年■■月十二日。
140				王宗祐	署理	宣統二年九月～	江蘇溧陽	举人	『順天府档案』、卷十二、直隸通永道造送現任各官大計履歴事考清冊。

項目説明

【康熙】『（康熙）宝坻県志』、卷四、秩官志での順位。

【乾隆】『（乾隆）宝坻県志』、卷八、職官志での順位。

【光緒】『（光緒）順天府志』、卷八十二、官師志、国朝州県表二下での順位。

【氏名】名の確認ができていない知県は、姓氏のみ記す。

【任官形態】「授」「調」「署理」など、把握できる情報のみ記す。

【在任期間】出典を明記していない知県は、『（光緒）順天府志』の記録による。

【本籍】寄籍の場合は備考欄に示す。

【出身】「進士」「举人」「監生」などの任官資格。